カレーライスと海岸線

愛知県立文芸ヶ丘高等学校　２年

高文連　太郎

ある日の午後二時。俺は親友のシンジと学食に向かった。いつものように騒がしい。

「君、何にする？」

「俺は……カレーライスにしようか。」

男だらけの世界の中で、唯一の楽しみといえば、この学食だった。山盛りご飯にルーがなみなみとつがれる。テーブルへ駆け込み胃袋に流し込む。話題と言えばテスト・ゲーム・昨日のサッカーの試合、そして、現実か非現実かは問わないが、彼女の話題。

　そんな中に突然やってきたのがＫだった。Ｋは決してきちんとした身なりではなかったが、立ち振る舞いにどことなしに、俺たちヴァルガーというべき存在とは一線を画す、そんなオーラを感じてしまうのだった。

Ｋはいつでも寡黙であった。寡黙であるのが彼の仕事であるかのようであり、俺は彼のそんな位置づけについて、ある意味羨ましささえも感じることがしばしばであった。

×

ある日の午後だった。

僕は親友と学食に向かった。

いつものように騒がしい。

「　君、何にする？」

「　俺はカレーライスにしようか。」

男だらけの世界の中。

唯一の楽しみは学食た。

山盛ご飯にルーがなみなみとつがれる。

テーブルへ駆け込み胃袋に流し込む。

話題と言えばテストとサッカーの試合。

そして、現実・非現実の彼女の話。

　　そんな中に突然きたのがＫだった。

Ｋはきちんとした身なりではなかった。

立ち振る舞いにどことなしに、俺たちヴァルガーというべき存在とは一線を画すオーラを感じさせた。

ある日の午後だった。僕は親友と学食に向かった。いつものように騒がしい。「君、何にする？」「俺はカレーライスにしようか。」男だらけの世界の中で、唯一の楽しみといえば、この学食だった。山盛りご飯にルーがなみなみとつがれる。テーブルへ駆け込み胃袋に流し込む。話題と言えばテスト・ゲーム・昨日のサッカーの試合、そして、現実か非現実かは問わないが彼女の話題。そんな中に突然やってきたのがＫだった。Ｋは決してきちんとした身なりではなかったが、立ち振る舞いにどことなしに、俺たちヴァルガーというべき存在とは一線を画すオーラを感じさせた。

　ある日の午後だった。僕は親友と学食に向かった。いつものように騒がしい。

「君、何にする？」

「俺はカレーライスにしようか。」

男だらけの世界の中で、唯一の楽しみといえば、この学食だった。山盛りご飯にルーがなみなみとつがれる。テーブルへ駆け込み胃袋に流し込む。話題と言えばテスト・ゲーム・昨日のサッカーの試合、そして、現実か非現実かは問わないが、彼女の話題。

　そんな中に突然やってきたのがＫだった。Ｋは決してきちんとした身なりではなかったが、立ち振る舞いにどことなしに、俺たちヴァルガーというべき存在とは一線を画すオーラを感じさせた。

改行だらけの文章

ブチブチで読みにくい！

段落がない文章

切れ目がなく読みにくい！

段落を適度に使うと…

読みやすくなりました

○まるる

この他、「……」「―」は2字分使う、縦書きの数字は漢数字にするなど、原稿用紙の書き方を遵守するようにしましょう。

７ページ以内に収めましょう。７ページ以上の作品は失格となります。（７ページに収めるために行数や字数を変えてはいけません）

×

×

ここに注意してください！！

（応募時は本テキストボックスごと消してください。）

不用意な改行・改行だらけの作品や、逆に段落がない作品は避けましょう

◆ファイル名を【部門・学校名のひらがな(”県立”などの属性や”高校”を除く・略称不可)・学年(ローマ数字・全角）・氏名・題名（短歌・俳句は初句・部誌紹介は部誌名）】の順で、それぞれスペース(全角)を空けて記したものにして下さい。

例：散文　ぶんげいがおか　２年　高文連太郎　カレーライスと海岸線.docx

「おい、愛美とはどうなったんだい」

「どうももないさ、なんでもない」

「そんなこと言うなよ。俺はこう見えても純粋な愛のみに生きる男さ。」